

いつも大変お世話になり、ありがとうございます。

お米の価格が下がりません。

農林水産省は「流通の目詰まり」が原因だと言います。しかし、その背景には、お米の生産量がここ数年足りなくなってきたことがあると考えます。お米は性質上、少し足りなくなっただけで敏感に値上がりします。これを察知した業者たちが投機的な行動を起こして、品薄・高騰に拍車をかけたのではないかと分析します。もちろん、昨年8月の南海トラフ地震の臨時情報を受けて、消費者が買いために走ったのも一因です。

現時点では、備蓄米が放出されても効果が出ていません。その理由は、1)備蓄米を大手の集荷業者に卸したため、小売であるお米屋さんやスーパーに回るのに時間がかかっています。また大手の卸売は外食産業などを優先し、その精米にも時間がかかります。2)数字を見ると、卸売から小売に売る際に、5割程度のマージンをとっています。令和4年産米に関する農水省の調査では、卸売から小売へのマージンは15%に過ぎません。流通関係者からすれば、高いお米の在庫があるのにもかかわらず、備蓄米を安い値段で売ると損するからでしょう。

本格的な値下がりや、今月下旬頃になるのではないかと期待しますが、引き続き、気づいたことを農林水産大臣に提案してまいります。

いずれにせよ、これは今回だけの問題ではありません。

台湾有事などが想定される中、食料安全保障の要になるのが主食のお米です。

根本的には、お米の生産量を抑える政策の変更が求められます。以下のことが重要です。

- 1) できるだけ国産のお米を食べることを奨励する。
- 2) 農家の立場から、ここ数十年の米価は安過ぎて赤字に追い込まれ、後継者がいなくなっている。こうした価格面での配慮が必要。
- 3) 他方、あまり高値だと「米離れに」つながりかねない。したがって、農家の赤字部分は国が税金で補填する。
- 4) 生産性向上のため、水田の集積を進めるとともに、可能な範囲で大規模化を促進。
- 5) 政府備蓄米は現在2ヶ月分しかない。これを1年分に増やす。
- 6) 余ったお米の輸出先をどんどん確保する。

お米の生産量を抑えてきた理由は、その消費量が毎年平均10万トンも減少しているからです。過剰生産は米価下落につながり、農家の皆様の生活を圧迫します。国家・国民が農家をもっと支えなければ、米価高騰どころか、いざという時に痛い目に遭います。

最近、中国は戦争の準備のためか、自給率が100%近い米・麦について、1年分の備蓄をしはじめました。私たちは、もっと危機感をもって「瑞穂の国」の復活に向けて邁進すべきです。